

2. 調査の経過

本報告書は、2013年から2017年にかけて実施した小豆島岩谷石切場八人石丁場海岸部の調査成果を報告する。調査参加者の所属は、調査当時のものである。

○実地踏査

調査期間：2013年3月8日

調査者：高田祐一（神戸深江生活文化史料館）

調査概要：八人石丁場の海岸部について実地踏査を実施した。海岸及び海中に石材があることを確認した。

○実地踏査

調査期間：2014年1月10日

調査者：高田祐一（奈良文化財研究所）

調査概要：八人石丁場の海岸部および天狗岩磯丁場について実地踏査を実施した。海岸にある石材の分布範囲を確認した。

科学研究費「近世における石材生産と運搬に関する広領域史的情報の資源化と実証的研究」（研究課題 25884098、研究代表者：高田祐一）による。

○第1次調査（予備調査）

調査期間：2015年9月13日～14日

調査者：橋詰茂（徳島文理大学文学部）、高田祐一（奈良文化財研究所）、福家恭（長岡京市教育委員会）、広瀬侑紀（京都橘大学生）、大嶋和則（高松市教育委員会）、鈴木知怜、嵯峨根絵美（京都橘大学生）、山村侑里、日野優香、福家萌希（徳島文理大学生）

調査概要：小豆島東海岸の石切場関連遺跡の現状を確認した。八人石丁場の海岸部及び海中の石材分布をシュノーケリングによって確認した。

科学研究費「東瀬戸内海島嶼部における大坂城築城石丁場と石材輸送水運に関する研究」（研究課題 26370781、研究代表者：橋詰茂）による。

○第2次調査

調査期間：2016年7月16日～18日

調査者：橋詰茂（徳島文理大学文学部）、高田祐一（奈良文化財研究所）、福家恭（長岡京市教育委員会）、広瀬侑紀（京都橘大学）、大嶋和則（高松市教育委員会）、小松真人、嵯峨根絵美（京都橘大学生）、山村侑里、井上順仁、周航宇（徳島文理大学生）

調査概要：八人石丁場の海岸部～海中の石材分布状況をシュノーケリングによって確認した。分布状況を把握するため、主要な矢穴石について平板測量によって平面図を作成した。合わせて、主要な石材の個別略測図を作成した。

科学研究費「東瀬戸内海島嶼部における大坂城築城石丁場と石材輸送水運に関する研究」（研究課題 26370781、研究代表者：橋詰茂）による。

○第3次調査

調査期間：2017年7月26日～28日

調査者：高田祐一、金田明大、山口欧志
（奈良文化財研究所）



石材実測風景

調査概要：八人石丁場の海岸部から沖合にかけて、水中ソナー及び海中撮影（SfM-MVS）によりオルソ画像を作成した。2017年度公益財団法人福武財団瀬戸内海文化研究・活動支援助成（調査・研究助成）「小豆島における巨石海運技術の研究」（研究代表者：高田祐一）および奈良文化財研究所埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室の検証事業による。

○第4次調査

調査期間：2017年9月30日～10月1日

調査者：高田祐一（奈良文化財研究所）、
福家恭（長岡京市教育委員会）、
広瀬侑紀、鈴木知怜（京都橘大学）

調査概要：陸上部から波打ち際にかけて、撮影用ロングロッドを用いた写真撮影を行い、オルソ画像を作成した。また、それに合わせて、基準となる石材や海中の石材を平板測量で記録した。クリアカヤックによって、海中の状況を補足的に観察した。2017年度公益財団法人福武財団瀬戸内海文化研究・活動支援助成（調査・研究助成）「小豆島における巨石海運技術の研究」（研究代表者：高田祐一）による。



平板による測量（レーザー距離計の使用）



クリアカヤックによる海中の観察

○調査研究成果のアウトリーチ活動

期 間：2018 年 2 月 18 日

実施者：瀧下祐輔、高田祐一（奈良文化財研究所）、福家恭（長岡京市教育委員会）、広瀬侑紀、鈴木知怜（京都橘大学）、藤田精（高尾石材）

概 要：岩谷石切場における調査研究成果を地域の方に知ってもらうべく現地案内会を開催した。岩谷で喫茶店を営む瀧下祐輔と共同で開催した。天狗岩丁場を実際に巡りながら石垣普請、石の割り方、海岸の積み出し遺構の状況、取り組んでいる調査の概要などを解説した。当日は 20 名の参加があった。約半数が小豆島島内で、それ以外が島外からの参加であった。年齢は 20 代から 60 代であった。小豆島島内からの参加者は、小豆島出身で在住の方と移住された方がいた。両者とも小豆島に住みながら、石切場のことをよく知らないために参加したという意見が多かった。案内会終了後には、石の割り方などがよく理解できた、様の案内会を今後も継続的に開催してほしいという意見が多かった。



石丁場の見学



刻印の解説



石の割り方の解説



石割り動画を見ながら解説